

武禅館の武術空手を知る為に

指導方針と理念の手引き

2016年4月版



日本武術教育振興会 総合空手道武禅館
館長 小池一也 ©

武禅館へのご入門、そして日々の稽古、誠にありがとうございます。
ます。

今回、武禅館において武術空手を学ぶに当たり、指導者や道場生、
保護者様各位、全ての関係者の皆様へ我々団体の設立の歴史、協
会理念、そして指導方針への理解を頂くことが必要であると痛感
し、ここに今現在の展開をお話しさせて頂くこととなりました。

この小冊子をお読み頂くことで武術への理解が深まり、なぜ、今
現在、そのような指導をしているのかが理解できるような内容と
なっております。

お手数ではありますが、これも武術修行の一環であると考えて頂
き、全てお読み頂ければ幸いです。

館長 小池一也

目次

第一章：そもそも武術空手とは何か

1. まずは武術の意味を知る
2. 武術はリーダー育成の為のもの
3. 武術修行は仏門修行の感覚に近い

第二章：武禅館の設立背景と協会理念、社会的目標

1. 設立理由は戦後GHQによる武道禁止令問題にある
2. 武禅館が脱スポーツを掲げる理由
3. 武術復古の実現が武禅館の最大の目的
4. 武禅館の協会理念まとめ
5. 社会問題の是正と武禅館の役割

第三章：武禅館の「武は禅なり」とする指導方針

1. 変化に対する適切な対処を身に付ける
2. 型稽古はトヨタ生産方式に似ている
3. 「迷い」こそ修行の意味がある

第四章：創立期から現在まで変更改善点

第五章：今後の展開目標

1. 組手稽古
2. 武器術の履修での年齢と級位制限
3. 昇級審査の見える化、制限の撤廃
4. 指導者の育成

第一章 そもそも武術空手とは何か

■ 1. まずは武術の意味を知る

武禅館の空手は「武術としての空手」です。武術空手とは、極真会館などの現代諸流派に見られるフルコンタクト空手など「スポーツ空手、格闘空手」や、形式は近いですがオリンピック競技である全空連四大流派の武術観とは一線を画します。

武術とは何かを突き詰めると平安時代に書かれた闘戦経という兵法書の第一章「我が武なるものは天地の初めに在り、しかして一気に天地を両つ。雛の卵を割るが如し。ゆえに我が道は万物の根源。百家の権輿なり。」と言葉に行き着きます。

この言葉は「古事記」の冒頭である「天地初発之時」で照らし合わせ、また社会学的知見で生物が進化の過程でコミュニティを形成する過程論と同時に考えると武術における「武」の立ち位置が見えてきます。

武とは「戈を止める」と書くことをよく聞くかと思いますが、まさにその通りです。

生物が進化の過程で「人間」としてのコミュニティを形成するに当たり、まず無秩序で混沌とした状態であったことは想像に難しくありません。秩序や法という概念がそもそも存在しないのですから、略奪、殺戮が起きるのは生物の当然の流れです。しかし、ある時、一つのコミュニティの中で全体利益の向上思考と優れた人格と、突出した「力」を持つものが「暴力=戈」を制し、秩序

を作っていたのが「社会のはじまり」であると、どの学問の視点から見ても間違いありません。そうした社会を形成した突出した力こそ「武」であり、日本では「武」は国生みの根源として神聖に扱われていた歴史があります。

■ 2. 武術は「リーダー育成」の為のもの

武は神聖であり、人の根源である。

そうした力を得る為に体系立てられた術が「武術」であります。武術は古語で「兵法」とも言います。武術を学ぶ者は、ある意味で統率者、形成者、創造者…いわゆる「人の上に立つ者＝リーダー」を育てる為の術（すべ）です。

力を得ることはある種で危険なもの。力とは高い思考抽象度を持ち合わせていなければ、暴力へと成り下がってしまいます。

特に気を付けなければならないのが、善悪のみで考えるという正義感。武術において、行き過ぎた正義感は暴力であると考えます。

例えば現代の話でいえば、西洋諸国（キリスト）と中東（イスラム）をめぐる戦争やテロなどの問題が考えやすいでしょう。西洋諸国の正義感で見れば、当然、テロにおける無差別殺傷など言語道断。しかし、視点を変えて中東側の正義感で見て見れば、過去の西洋諸国の植民地支配における文化破壊などの蹂躪への復讐や、失われた文化と誇りを取り戻す戦いとしても見て取れます。結局のところ、お互いの正義がぶつかり合っているだけで、「勝

者＝正義」という価値判断の中、暴力が繰り返されています。これは「武」や「武力」とは呼びません。

この戦争に勝った者が真のリーダーと呼べるでしょうか。こうした暴力で秩序を作り出すことを、日本の古語である大和言葉では「ウシハク」と呼び、武威で以て丸く収めることを「スベル」と呼びました。日本ではスベル（統べる）者が理想のリーダー像として尊ばれ、その象徴たる存在が天皇（朝廷）とされてきました。

こうした問題の縮図は日常生活でも多々起こりえます。「Aが悪い！」「いや、Bが悪い！」という些細な諍いや妬みは尽きません。そうした問題の解決することが武人の役割であり、人の上に立つ者＝リーダーの役割です。しかし、間に立ち、「こっちが悪い！」と裁定付けるのは「武」の欲するところではありません。それは権力を振りかざしているだけの「横暴」でしかありません。問題を一つ上の思考抽象度で見渡し、「どちらの言い分も鑑みる」ことが武人の役目であり、リーダーの役目です。問題を解決することではなく、今後起きるであろう問題の種を生まない秩序を作ることが武の役目なのです。

そうした役目を負う武人は当然、高い思考抽象度を持つことが前提であり、その為の修行として武術があると武禅館は考えております。

■ 3. 武術修行は仏門修行の感覚に近い

武禅館では「武は禅なり」としています。禅と聞くと座禅のよう
に他事を考えたら師匠や肩を木の板でパンッ…という誤解が
ありますが、本来の「禅」の意味合いは全く違います。禅という
ものは、「世は何か」という悟りを得る為の道筋のことを指しま
す。決して、「さあ禅修行するぞ！」と意気込んで行うような修
行法のことを指すのではなく、現代でいえば学問の追及に近い意
味合いがあります。

「悟り」とは現代の学問である哲学や脳機能学的知見で見れば思
考抽象度向上のことを指します。東洋哲学において、最もの上位
概念は「空（くう）」であると定義されています。この概念は、
数学者クルト・ゲーテルの「この世にある命題は完全に証明でき
ないことを、完全に証明した」という不完全性定理と照らし合わ
せると分かり安いでしょう。また物理学者南部陽一郎らが発見し
た超弦理論と照らし合わせて考えても理解が深まるかもしれま
せん。

「空」とは「色（しき：有）」と「無」を包摂する上位概念であ
ると言われています。この世は有と無でできている。「有」は人
が認識できる実世界。物理学の超弦理論で照らし合わせれば、原
子よりも遥かに小さい一次元の広がりを見せる弦が振動し素粒
子を生み出し、様々な物質や現象を生む「有」という状態、反面、
「無」は弦が振動せず、真空状態である状態。しかし、無であっ
ても弦は存在しているという矛盾状態があり、結局、この世で完
全ではないということから一つ上の抽象概念で「有」と「無」を

包摂する「空（くう）」という概念に人類は行き着きました。

そうした悟りを得ることが仏門の意義です。そして、その仏門の世の根源を知る意義は、人の世の根源を知ろうとする武の意義にも繋がり、また、現代学問の求めるものにも繋がり、求めるところは同じであると言えます。

その事は、安土桃山期から江戸期を生きた沢庵禅師と柳生新陰流兵法の柳生宗矩との問答をまとめた「不動智神妙祿」という兵法書でも書かれていることでもあります。有名な一文では「いかに千手観音といえど、一つの手に囚われては、残り九百九十九の手は無用と化すなり」とあります。一つの正義に囚われては、他の概念が見えなくなるという仏像から得る教訓を指すという言葉です。

武術（兵法）とは常に「戦い」という問題解決を通して、世の本質を探る命題を課せられています。その教訓は一つの攻撃手段に囚われては、他の可能性が見えなくなるという現象にも繋がるということから、「武術（兵法）は仏門と通じる」という認識が主流となりました。

また、不動智神妙祿の後、現代でも剣豪として伝わる宮本武蔵が「五輪の書」として「武術（兵法）＝仏門≒実社会の処世術」としての応用の可能性も示しています。

また時代は昭和に移ろい、琉球（現在の沖縄）において「武術（兵

法)」と同意義語であった「手（ティ）」が日本本土に伝わる際、「空手」と改称したのも、そうした「空（くう）」を知るという意味があったとの説も残っています。

私、館長である小池一也は「手を空（から）にして、武の本質を知り、世の空（くう）を知る」という空手の意義を悟りとして体感した時、「武は禅なり」という開眼から、2010年に総合空手道武禅館を設立した次第にあります。

このことから武禅館では武術修行を**実社会でのリーダーとして必要な思考の向上**を目的としている次第です。

それが武禅館の誇りであり、理念であり、決して曲がることのない本質であります。

第二章 武禅館の設立背景と協会理念、社会的目標

■ 1、設立理由は戦後GHQによる武道禁止令問題にある

「武術＝仏門＝学問」とする考え方は、昭和初期まで続きました。高名な武術家の多くは江戸期は大名であり、明治期以降から昭和までは大臣や政治家、軍人なども多くいました。武術修行は人間教育でもあったからです。

しかし、日本敗戦後にアメリカのGHQ統制が入り、日本人の精神の根幹は「武」にあると古事記研究、皇室研究から気付き、

日本をキリスト教国の属国へと変貌させる為に「武道禁止令」が
発布されます。

その武道禁止令に危機感を持った当時の衆院議員であり小野派
一刀流宗家の笹森順造氏が、GHQに武道禁止令の解除を嘆願し
ました。そこで得た回答が「アメリカ陸軍銃剣教官相手との立合
いで見事怪我をさせることなく勝つことができたのなら、武道を
スポーツとして残すことを認める」とするものでした。

そこで白羽の矢が立ったのが今武蔵と謳われ、当時の武術界で
最強を誇った鹿島神流 18 代宗家国井善弥氏でした。余談ですが、
国井氏は私の剣の師の師に当たります。

国井氏は竹刀。アメリカGHQ側の教官は本物の銃剣。ライフル
での発砲も許されますし、ライフルについた剣で突き刺すことも
許されます。その勝負条件においても、国井氏は相手の攻撃を避
け、竹刀での斬り込みを利用した合気で以てアメリカ銃剣教官の
動きを封じ、敵側の降参での勝負ありとなりました。

そうして日本武道、および日本武術は、スポーツ、体育として形
を変えることによって、存続が許されました。

■ 2. 武禅館が脱スポーツを掲げる理由

空手界もその煽りを受けています。以前は稽古法の一つであった
組手がスポーツ競技となり、スポーツ空手という言葉が生まれま
した。

また昭和40年ごろには戦後に創設された極真空手が頭角を現し、現在のフルコンタクトルールにおける格闘競技としての空手が横行しました。昭和中期は暴力団同士の抗争に一般人が巻き込まれることが社会問題であった時代背景から、これらの格闘空手は「ケンカ空手」とも標榜することで隆盛を極め、「ケンカで使える空手」が持て囃されました。これによって「実戦=実社会での活躍」という概念が日本武道界から消えてしまった由々しき事態も招いております。

フルコンタクトなど競技において、「どちらが強いんだ」という比べ合いは、たしかに暴力沙汰での実戦力は高まるかもしれませんが、武の本質である「リーダーとして思考」は育ちません。自分の正義を押し付け、相手を叩き潰してのし上がる下剋上根性が育つだけです。下剋上を成したその先の教えは示されてはいません。

また、前項、第一章2でも著した通り、自分の正義の押し付けは、相手の正義を否定することとなり争いの根源となります。いかに武道団体であっても理念とする学術的知見で思想体系の思考抽象度が低ければ、当然、争いの種を植え付ける教育に成り下がってしまうのは必然であると考えます。

このように武は力を扱い、その力は人の本能に根深いところに存在しております。その根深い部分にある力を秩序の創造者である武を知る者である武人は、「力の何たるか」を知る必要があります、自己統制をする必要があります。

その自己統制という「己の内の中に存在する暴力」を制することもまた、武の役割として武禅館は考えています。

■ 3. 武術復古の実現が武禅館の最大の目的

第二章の1、2で著させて頂いた通り、現代では「武術」という概念が失われてしまい、生涯武道という小気味のいいフレーズを使ったスポーツ競技の団体と化してしまっているのが現状です。

「競い合う」ということだけを主としてしまっている現状は、どんな指導者が優れていたとしても「どちらが優れているか」を決するだけの思考回路に繋がってしまうという現象は避けられないのが現状です。

武禅館の最大の目的とするには、「武道＝生涯スポーツ」と考えってしまう現代のスタンダードから、GHQ統制以前の「武術＝仏門修行≒学問」という位置付けの復古を目的としています。

私が20代の頃より学校教育における武道必修化における政策案に対して反対陳情を提出や、情報発信を繰り返しているのも、そこに理由があります。

■ 4. 武禅館の協会理念まとめ

- ①学問、学術としての武術の復古、及び地位向上
- ②思考抽象度向上による「リーダー育成」

③上記育成における結果としての社会問題の是正

■ 5. 社会問題の是正と武禅館の役割

武禅館がリーダー育成を目的は全ての項で記してある通りです。それに伴い現代日本における社会問題の是正を目標としていることも、武禅館関係者各位にはご理解頂きたい一項でもありません。

ただ、私もいかに武術の本質を指し示す者であるとしても、人間であることの必然として、自分の体験に基づく社会問題にしか立ち向かえません。

私が専門、得意とするのは以下の社会問題です。

- ・子供の貧困問題の考察
- ・コミュニティでのイジメ問題に関する考察
- ・日本の教育観、ビジネス観の問題点の考察

こうした問題の是正を目標に武術家として、社会学者として講演活動などを行っていますが、やはり闘戦経の「足元の蛇から片付けよ」とある通り、まずは自分の周りにいる人達の問題を一つ一つ解決していくことが社会問題の是正に繋がるという思いで道場指導をさせて頂いている次第です。そうして私の下で育った人達が、また社会問題に対する意識を抱き、是正の輪が広がれば幸いです。

第三章：武禅館の「武は禅なり」とする指導方針

■ 1. 変化に対する適切な対処を身に付ける

時代は常に移ろうものです。例えば、経済社会を考えてみれば、それは一目瞭然。戦後復興後はとにかく作れば売れる時代。そしてバブル期までの時期ならば良いものなら売れる時代。しかし、様々な物が飽和し、新しい物を生み出すことが困難な現代ではイノベーションが大切であると言われていています。一つ上の抽象度で関連し合う既存と既存のものを組み合わせ、新たなものを作り出す時代です。その象徴と呼べるものが、まさにスマートフォンでしょう。このスマートフォンの台頭により、我々の生活は大きく変わり、価値観も変化しました。

このように社会は常に変化しています。情報化社会である現代では、今まで以上に変化のスピードが大きいことは言うまでもありません。しかし、社会が変化しているにも関わらず、教育に関しては変化が遅れていることが現状であることは言うまでもありません。

その理由としては、人の本能は恒常性を持ち、変化を恐れる生き物であるからとも言えます。一度覚えた常識を捨て去り、新たな常識にシフトウェイトすることを人は恐れます。結果として時代に変化に取り残され、生き残ることが困難になってしまいます。そうした時代の流れは、現代の日本経済の悪化を見るに私達が想像する以上に加速することは間違いありません。

武は常に適切を求めるものです。変化を恐れることはリーダーとして適切ではありませんし、不幸を招きます。

そうした理由から武禅館では「変化」を良しとしています。

■ 2. 型稽古はトヨタ生産方式に似ている

特に「変化」を求めるには「型稽古」という普通の練習体系の中で変化を見出すことを目標としています。型は空手だけでなく、日本武術、東洋武術の醍醐味とされ、その練習体系は西洋諸国には例を見ません。

型は決まった順番があります。その順番は変えてはなりません。しかし、体遣いは変化しなければなりません。一見矛盾したような考え方にとれますが、一つの動きをより高度なレベルに向上させるには、様々な可能性が多くあります。腰の切るタイミングや足指の向き、運足のライン…様々な無駄を省くことで、より動きは速く、力強くなるものです。言ってみれば、型稽古は「まだ無駄はないか、まだ無駄はないか」と乾いた雑巾を絞る作業であるとも言えます。

そしてその雑巾は、人の脳機能という無限の可能性がある以上は乾き切ることはありません。その考え方は日本の大企業でもあるトヨタ自動車で行われているトヨタ生産方式にも似ているとも言えます。

そうした変化の見出しにくい部分から、常に変化すべきところを見つけ、より良い型を作り上げるのが型稽古です。

だからこそ、武禅館では型を重要視し、なお解釈が深まる度、型が進化していきます。

■ 3. 「迷い」こそ修行の意味がある

武禅館の技術に内包された概念が非常に難解な部分があります。その技術の根底である概念が揺るがなければ、技はどのように変化しても構わないというのが武術の最も理想とするべきところではあります。

そこには当然、迷いが生じます。技術や解釈が変化するごとに生徒達はきっと迷うことでしょう。むしろ、迷うことが何よりも学問であると共に、修行であるといえます。その「迷い」こそ大切にしてください。迷いは成長のチャンスであると言えるのです。

武術修行は学問であるとも言えます。学問とは学ぶことではありません。学ぶだけならば学習で充分です。しかし、それでは修行にはならず、道場の意味はなく本末転倒です。学問とは「学び、問う」ことです。学んだことを「本当にこれでよいのか」「なぜ、こうなのか」と分析し、考察し、よりよい結果に繋げていくのが学問であり武術修行です。

生徒が迷いにある時、指導者として大切なことは答えを安易に示すべきではありません。指導とは「その指した指そのものを見せ

るのではなく、その指の指し示す方向を見せる」ことです。一過性の安易な指導をしないことを武禅館では心掛けており、人生修行の材料となる「迷い」を提供しているとも言えるでしょう。

そもそも武術修行は「これを達成すればOK」という具体的な目標は存在しないからです。武術修行の目的は「人の道を全うすること」にあります。人の道には具体的で明確な答えはなく、その答えを求め、常に己に問い続けるものです。それが武術修行の醍醐味であり、修行に終わりはありません。

第四章 創立期から現在まで変更改善点

武禅館の空手が「武術空手」である以上、より安全に、より高レベルに、そして、より公平になるようシステムを工夫、変化させていく必要があります。

その工夫、変化の過程をより多くの関係者各位にご理解頂く為に羅列させて頂きました。

■ 1. 組手稽古

武術は護身という側面もあり、それは弱者が強者に勝つ術でもあると言えます。その為、武禅館は誰でも続けられるように稽古体系に工夫と変化を凝らしてきました。

	組手内容	問題点と改善点
--	------	---------

改善前 (2010年 ～2013年 後期)	直接打撃制 を約9割	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みや恐怖で攻防が成立しない ・怪我の発生率が高い ・顔面、背部への攻撃がなく護身性欠如 ・体力任せになり技が崩れる
改善後 (2014年 ～現在)	寸止めを約9割、上級男子のみ直接打撃の履修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や女児も攻防の基礎が身に付いた ・骨折などの事故が皆無に ・全局面での護身に対応できる ・綺麗な技が身に付いた

空手はスポーツではなく武術である以上、様々な攻防シチュエーションに対応しなくてはならず、「空手はこのルール」という決まり事も存在しません。

また様々なルールの大会に出場するのも、そうした応用力を高めることに目的もあり、また、その応用力を高める稽古として「寸止め」で行う組手稽古の効果が高いことも証明できました。この練習方法を採用して以降、短期間でも大会実績をとれる人が多くなりました。

また、暴力性をなくし、暴力を制することが目的でも攻撃欲求を抑えるという心理育成にも寸止めでの稽古は役立っていることが分かりました。

■ 2. 武器術の履修での年齢と級位制限

	履修年齢	問題点と改善点
改善前 (2010年 ～2013年 後期)	全員が履修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武具や人に対する敬意が育っていない子供へは、ただの暴力の教授とだけとなり伝統文化の継承とならない。 ・ テンションが上がり、遊び道具にするなど神聖さ、厳粛さが損なわれる。
改善後 (2014年 ～現在)	中学生以上の 上級者の み履修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素手での攻防を履修し、敬意が育った後に学ぶので神聖さ、厳粛さが損なわれない。

空手の発祥は刀剣や棒などの武器への対処が前提であり、伝統系諸派では武器の履修が尊ばれています。黒帯取得時に武器術の履修が必要であることは現在でも変えておりません。

今後は黒帯取得目前である茶帯一級取得者が育ち次第、定期的に武器術のセミナーを行う予定です。

現在、武禅館の一般道場生で一級取得者は存在しません。

■ 3. 昇級審査の見える化、制限の撤廃

	審査状況	問題点と改善点
改善前	・稽古時間内での	・人に見られる緊張感が少なく、「本番

<p>(2010年 ～2015年 後期)</p>	<p>審査 ・履修単位は非公 表 ・館長一人の独自 裁定 ・4級までは不合 格なしで、受講資 格は半年</p>	<p>での実力発揮」という本質的能力が育 ちにくい。 ・何が優れて、何が足りないのか自己 分析が難しい。 ・一人が判定を下すので、審査結果が 心情に左右される要因となり不公平。 ・保護者が見学できず、成長の結果を 見ることができない。 ・館長一人が権力を掌握してしまう ・館長死亡時、または病床引退時に全 てが途絶えて、生徒の努力が無駄にな る。</p>
<p>改善後 (2016年 ～現在)</p>	<p>・合同審査会での 審査 ・履修単位の公表 ・館長含め、指導 員3名上合議性 ・4級まで不合格 なしで受講資格 は3ヶ月</p>	<p>・より大きな緊張を生徒に与えること ができる本質的な審査となった。 ・審査結果が自己分析の材料となった。 ・保護者が見学できた。 ・館長の心情に左右されず、公平な技 術審査ができるようになった。 ・館長の権力が低下し、不在でも会が 成り立つ基盤の第一歩目となった。</p>

■ 4. 指導者の育成

今後は指導者育成の為、3ヶ月に一回日曜に支部長練習会を開
催し、より高度な指導ができるように研修を致します。また、今
後、指導者を目指したいという30歳以上の4級以上取得者はこ

の練習に積極的に参加してください。

また、今後とも会員増加に伴い、2016 年夏以降、段階的に稽古開催時間を増やしていく計画です。

	練習時間 ※は子供教室、または子供参加可能
現在	月 19 時～21 時※ 金 18 時～19 時※
各クラス 定員 30 名	金 19 時 15 分～21 時 土 10 時～11 時※ (青帯以上のみ 11 時 30 分まで) 土 11 時 45 分～12 時 30 分 土 18 時～19 時※ 土 19 時 15 分～20 時 30 分
段階的に 追加する 練習時間	金 16 時～17 時※ (青帯以上のみ 17 時 30 分まで) 土 14 時～15 時※ (青帯以上のみ 15 時 30 分まで) 土 16 時～17 時 緑帯以上の稽古会※

全て定員に達せば、常設道場を開く目途が立ちます。